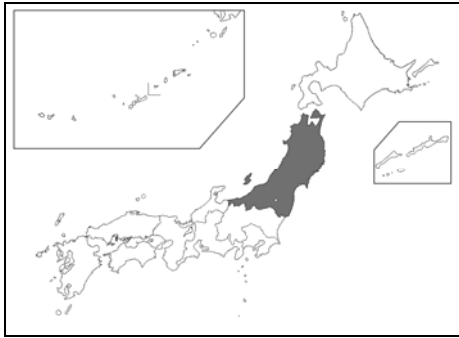


## (2) 東北



東北地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

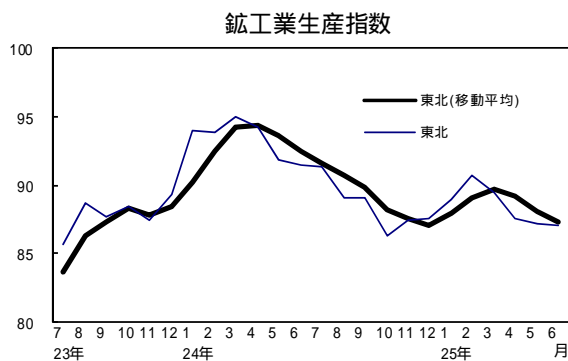
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 5 月)	今回 (平成 25 年 8 月)	
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	<u>緩やかに持ち直しているものの、一服感</u>	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。

4～6月期には、電子部品・デバイスは、海外景気減速による需要減でモス型半導体集積回路(その他 CCD)が低調だったこと等から減少した。食料品・たばこは、水産加工食品が低下に寄与したこと等から減少した。一般機械は、海外向け半導体製造装置が低調だったこと等から減少した。情報通信機械は、カーナビゲーションシステムが低下に寄与したこと等から減少した。化学は、医薬品が増加に寄与したこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	17.9	0.5	13.0	13.6	0.0	7.9
食料品・たばこ	11.8	3.5	1.3	2.2	0.4	0.7
一般機械	10.1	17.3	0.3	19.6	15.3	1.0
情報通信機械	9.6	3.8	10.1	22.1	19.9	10.7
化学	7.0	2.6	7.1	29.1	8.9	2.2
鉱工業	100.0	3.0	2.7	2.1	0.5	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

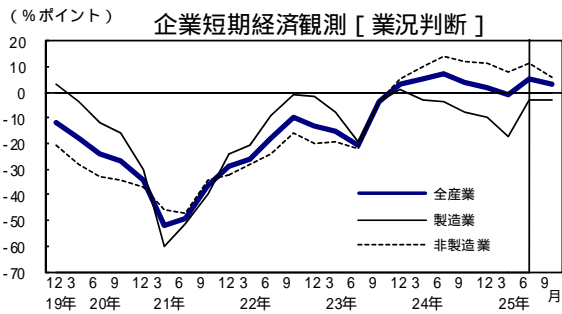
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。最新月は速報値。

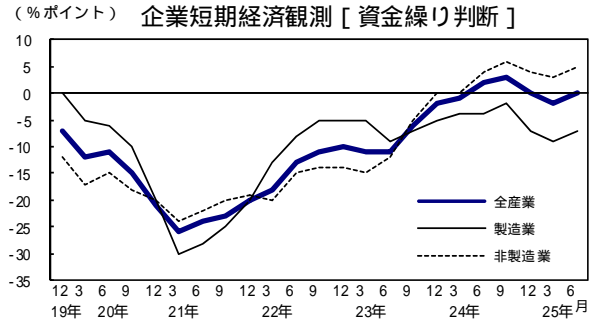
2. 太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

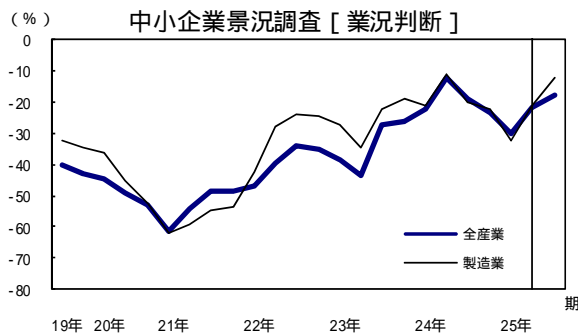
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。



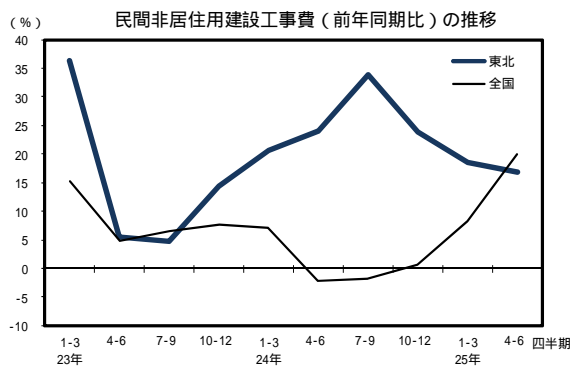
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]  
「燃料価格が次第に上昇してきている(農林水産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	16.5 (2.4)	10.2 (4.4)
製造業	6.3 (0.7)	15.7 (5.8)
非製造業	31.4 (6.3)	3.6 (17.5)

(備考) ( )は前回(3月)調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.6%増、5月は同0.1%増、6月は同0.5%増となった。

大型小売店販売額

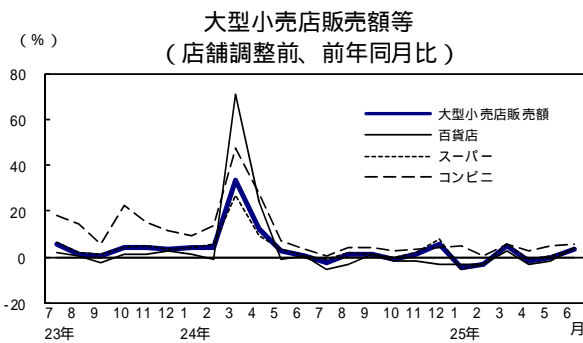
百貨店は、4月は、春物衣料が不振だったこと等から前年を下回った。5月は、月前半の低気温により春物衣料が好調だったものの、夏物衣料が不振だったこと等から前年を下回った。6月は、クリアランスセールの前倒しや夏物衣料が好調だったこと等から前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品で総菜が好調だったほか、家庭用品で白物家電などが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、47.6となり前月より3.4ポイント低下した。

「東北地方はまだ梅雨明けしておらず、毎日曇りや雨で、夏らしい天候にならないことが影響し、盛夏物やリゾートタイプの衣料品が動いていない(衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

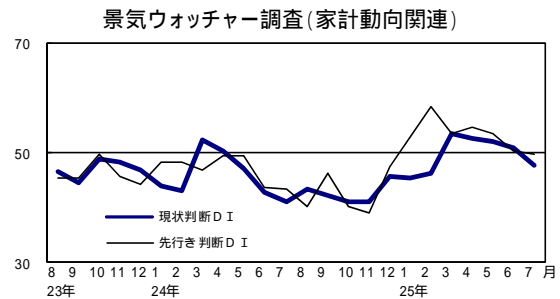
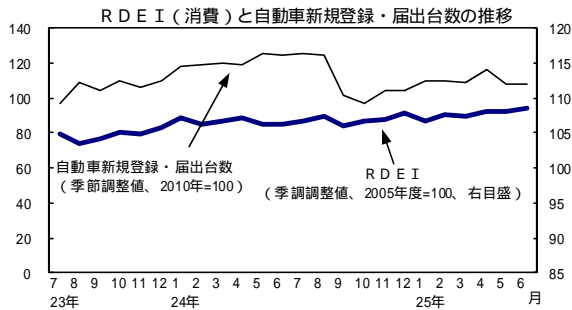


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.9	0.6	0.1	0.5
大型小売店(*2)	0.6	1.5	0.0	3.3
百貨店(*2)	0.4	3.1	2.0	3.8
スーパー(*2)	0.8	1.2	0.4	3.1
コンビニ(*2)	4.4	3.0	4.8	5.4
乗用車(*3)	9.6	2.7	11.8	13.2
(季節調整値)(*3)	1.0	7.0	6.9	0.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

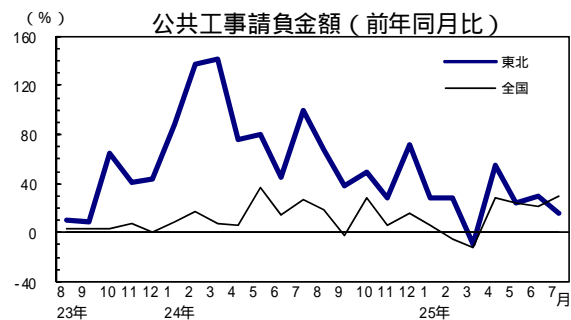
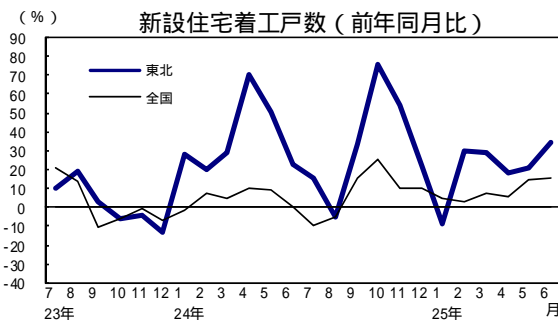
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

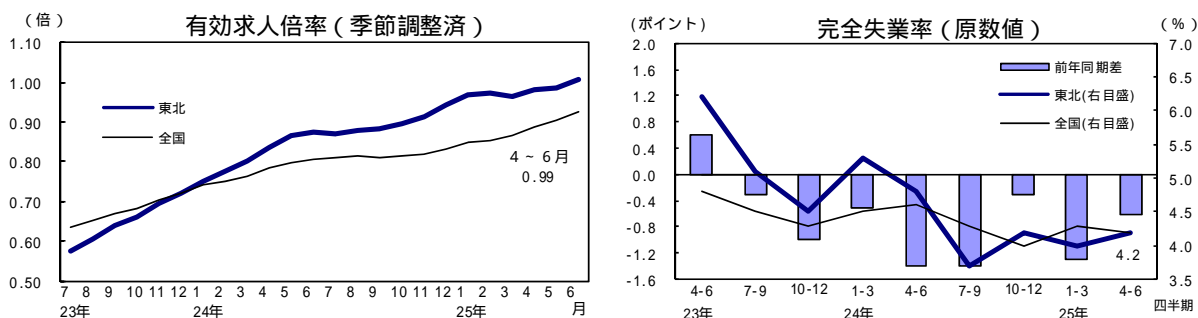


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

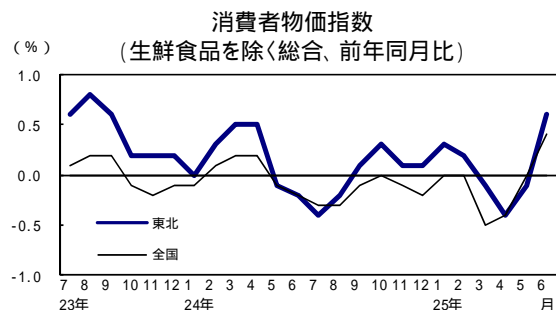
「米国の大手金融機関の破たん前までの状況には遠く及ばないものの、新規学卒者対象の求人が増加するなど、企業の採用意欲がやや高まっている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	117	120	126	118	39
(前年比)	26.9	0.8	0.8	4.1	18.2
負債総額	582	246	266	299	42
(前年比)	21.4	54.7	43.1	26.8	20.3



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・原油価格と為替の動向で、仕入れ価格が小刻みに上昇してきており、それに対応した末端市場への価格転嫁が遅れているため、粗利益が減少してきている(その他専門店[ガソリンスタンド])。

<先行き>

・梅雨明けが遅れ、残暑の予報が出ていることから、今後、秋物の立ち上がりが遅れることが予想される(衣料品専門店)。

